

セミナーの概

【開催日時】 12月11日(金曜日) 午後1時30分から午後4時30分まで

【開催場所】 都庁第一本庁舎大会議場

【開催目的】

第四期東京都自立支援協議会では、「相談支援専門員を中心とした地域の相談支援体制を考える」をテーマに議論を重ねています。今年度は、相談支援専門員等の持つべき力量について考えるためのセミナーを開催、広く関係者への情報発信を行った。

【受講者】

参加者 407名

受講者 366名(内訳) ※複数回答

所属	受講者数
障害当事者・家族	23人
指定相談支援事業所職員	171人
地域自立支援協議会委員	36人
行政職員	31人
障害福祉サービス事業所職員	170人
その他(居宅介護支援事業所、特別支援学校)	33人

聴講者 41名(内訳)

都協議会委員	8人
障害者施策推進部	8人
心障センター	21人
精神保健福祉センター	4人

【プログラム】

テーマ: 求む! こんな支援者

— 障害者(児)相談支援の充実のために —

第一部 話題提供

< 話題提供者 >

- ・今村 まゆら氏 元相談支援従事者現任研修検討委員会委員 (特定非営利活動法人NPO 狛江さつき会 地域生活支援センターリヒト)
- ・福田 暁子氏 武蔵野市地域自立支援協議会・障害当事者部会会長
- ・高沢 勝美氏 東京都自立支援協議会副会長 (社会福祉法人武蔵野 統括施設長)

第二部 対談

- ・鈴木 智敦氏 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室 相談支援専門官
- ・沖倉 智美氏 東京都自立支援協議会会長 (大正大学人間学部社会福祉学科教授)

事前通信の概要

《事前通信から》

○申込みの際、相談支援に関わる際、「理想と考える人材」とは何か等を伺い、記入していただいた。(主な意見)

- ・利用者の主体性を大切に寄り添い、本人や家族に想いを寄せることが出来る人
- ・幅広い障害関連知識、地域特性や社会資源に精通しており、ネットワークを構築、活用できる人。
- ・傾聴と心に寄り添う支援を大切に本人、家族、支援事業所、支援者との調整役になる。
- ・日常のアンテナが良い人で、四角四面に考えるのではなく、柔軟な頭でいられる人、他の人と協力をおしまない人。
- ・一人で抱え込まず、支援者同士も共に課題に取り組める関係を作れる人。

話題提供・対談概要

第一部

話題提供

『相談支援専門員』の基本的姿勢・大切にしてきたこと(都相談支援従事者研修企画運営の立場から)

- ・東京都相談支援従事者研修の歴史について
- ・平成20年度国研修参加時の危機感 他道府県が官民協働のチームで中核的人材を派遣、都はその場で初めての顔合わせだったこと。
- ・相談支援専門員の「基本姿勢」「大切にしてきた考え」
- 一都の研修が養成を目指す相談支援専門員像 本人との信頼関係構築力、基本的面接技術、アセスメント力、計画の立案力、サービス提供者等との調整・交渉・協働する力、地域での人材育成の担い手、支援を必要とする人々の存在の創造力を持つ。
- ・“理念”を形にしていくことの困難さから 一東京都全体で“人材育成”のしきみを考える重要性と東京都でより一層広がっている地域格差について 現場実践を繰り返し反芻して、常に、気づきを得る場として、研修、事例検討に身を置く。育成システムの地域での中身のばらつきがあり、検証機能について、自立支援協議会の役割が重要。

(当事者から)

- ・当事者は相談支援自体が何なのかかわからない 相談員はどのような立場なのか説明をすることが大切。
- ・相談支援の技術について 相手に合わせることで、わかりやすい書式、方法で提示する。聞く姿勢では、待つこと、沈黙も大切。
- ・相談支援専門員は、相談に乗るだけではなく、相談することも重要 その人らしい生き方を頭において欲しい、人は自分のことは自分で決めたい、支援者はサポートする人に過ぎない、相談支援専門員としての自分の限界を知る、支援者が変わっても継続性のある支援を心掛ける。重要なことは諦めないこと、道の模索。

東京都自立支援協議会 今期の取組

障害者(児)相談支援の充実のために(東京都自立支援協議会副会長から)

- ・第四期の活動 テーマ「相談支援専門員を中心とした地域の相談支援体制を考える」
- ・平成27年度の取組 相談支援専門員等に求められる視点、行動をケアマネジメントの過程に沿って、検討・整理 交流会及びセミナーにおいて参加者からも意見聴取
- ・取組の効果 意思決定のプロセス・未来への方向性・一人の支援だけでは出来ないこと・事業所と行政の関係・連携を育てること等への気づき。

第二部

対談

1. 都道府県では

- ・都道府県内の区市町村格差の理由についての確認と分析が必要。
- ・都道府県が実施する研修体制の見直し。
- ・都自立支援協議会は各地域自立支援協議会の取組についてのバックアップが重要。

2. 地域では

- ・区市町村における相談支援体制の機能と役割の整理が重要。
- ・区市町村、事業者、本人の三者連携や情報の共有化を図る等、市町村の中で支える仕組みが必要。
- ・個々のニーズを吸い上げる仕組み等が重要。

3. 組織(事業所)では(理念の共有・効果・効率的な経営等)

- ・1人職場等で、研修に行くことが難しい場合は、協議会の中で実践を報告する等の課題を共有。
- ・組織の中で相談員をどのように育てていくか、キャリアアップをさせていくということが重要な課題。
- ・現場を積み重ねる中で、質の検証を行うことが重要。

4. 相談支援専門職として(モニタリング等)

- ・相談支援専門員にかかわってもらってよかったと思ってもらえるかどうかをキー。
- ・相談支援専門員が、地域移行、地域定着、強度行動障害、重症児、医療的ケア等への対応力。
- ・相談支援専門員が書いたプランを自分の子供が使うプランとしたときに、報酬額に見合うものかどうかを常に意識。

5. 課題と展望(今後について)

- ・市町村の相談支援体制の整備状況の再確認が必要。
- ・障害者総合支援法施行3年後の見直しに伴い、社会保障審議会障害者部会において出された報告書案(27年12月)でも相談支援専門員の質と向上について提言。

アンケートの概要

回答数: 264人

回答	回答数	
	第一部	第二部
参考になった	192	126
普通	56	96
あまり参考にならなかった	9	11
無回答	7	31

第一部

- ・当事者目線の求められる相談者像、改めて自己覚知の範囲が広がりました。
- ・相談事務にあたる際の基本的な心がまえを再認識することができた。
- ・当事者のお話は心に残る。今後も様々な方のお話を聞いていきたい。
- ・実践を通しての言葉はとても刺激的で説得力があった。

第二部

- ・「関わってもらって良かった」と言われるような存在になりたいと思った。
- ・地域でできることや取組む工夫、課題等を当事者、関係者が共有、整理していくことに積極的にかかわりたい。
- ・都の自立支援協議会の任うべき役割が何なのか…結局、納得はできなかったが、地域間の情報共有はとても重要だと思う。
- ・区の自支協の相談支援部会の委員をしているが、もっと提案等を出し、相談支援の改善に向けて動きたいと思った。